



# 自公政権の悪政に審判を



政治を前に動かす日本共産党 建設的行動で暮らしを守る

2009年8月2日 第73号  
発行 日本共産党県議会議員 渡辺 ゆり子  
〈連絡先〉 日本共産党県議団執務室  
電話 023-630-3241  
自宅:山形市青田2-10-5  
電話 023-642-2365



7月21日に衆院が解散され、8月30日投票で総選挙が行われることとなりました。

解散当日は、佐藤まさゆき衆院比例候補(1区重複)とともに山形市内で政策を訴え、翌22日は高橋ちづ子東北比例候補(前衆院議員)が山形入りし、ともに市民に訴えました。

佐藤候補は、生活保護の母子加算廃止で苦しんでいる家庭の実態などをとりあげ、「自民・公明政治を終わらせ、格差と貧困のない社会をつくるため全力で奮闘する」と決意を述べました。



高橋候補は、後期高齢者医療制度廃止の運動や国会での日本共産党の果たした役割にふれ、民主党政権ができた場合も「国民にとって良いものは積極的に協力と提案を行い、悪政には防波堤になる」と述べ、「日本共産党が伸びることは、国民の暮らしを守る確かな一歩です」と強調、「日本共産党の躍進で自民・公明政治を終わらせ、国民本位の新しい政治をつくりましょう」「東北の1議席を守るため、日本共産党を大きく伸ばしてほしい」と力強く訴えました。

【写真上】街頭から訴える(左から)高橋佐藤両比例候補  
【写真下】街頭演説会後、参加者と握手を交わす高橋比例候補  
7月22日、山形市七日町

## 「消費税増税困る！」

先月は、地域や子育て中の若いお母さん対象の日本共産党のミニ懇談会に参加、後援会員も増えました。その中で共通して出されていたのが、消費税に対する怒りや思いです。マスクミなどでは、「消費税は定着した。理解が得られている。経済対策では増税は避けて通れない」などの論調が盛

んです。しかし、特に家計を預かる女性の声は、逆のためにと言っていたけど、少しも福祉がよくなった感じがしない」「保育園もいっぱい、うちの子は入れなかった」「子育てや教育にお金がかかるし、それが終わっても自分の老後が心配」の声が次々と...

## お茶の間懇談会で共通の声

「共産党は、消費税はどう考えているの？」に対しては、「まず増税ストップ、生活に関わる食料品は非課税に」と話すと、「そうよね、私たちの暮らしは厳しいのに、大企業には税金安くしてるんでしょ!」と返ってきました。

## この怒りを国政に

市内の各スーパーは、景気悪化で買物物の単価も来店者も少なめです。5%引きやポイントセールの時をねらっているからで、そんな日は混みあいます。みんな苦労して家計をやりくりしており、消費税は、怒りの的なのです。



## 看護師増員を 民医連・看護師さんら訴え

県民医連は、医師不足に加え看護師不足が深刻として、看護師養成機関の充実で増員を図ること、県としての確保や定着のための施策の強化、次期計画策定へ向けて看護師増の需要反映を、などを要請しました。鈴木保健薬務課長が対応しました(7月17日)。



## 米価下支えを 米安売りで農民連が緊急要請

県農民連は、米価下支えが必要として、政府自らが決めた備蓄米買い入れの即時実施、量販店の生産コスト、仕入れコストを下回る安売りの規制を政府に求めるよう要請、村上農林水産部次長、黒井農政企画課長が対応しました(7月15日)。



## 平和のたすきをリレー

戦没画学生の「祈りの絵」展、そして同じ題材の山形市平和都市宣言事業・平和劇場「岡部敏也の物語」を見る機会がありました。多くの人が、足を運んで見ると同時に、準備や協力に自ら参加していることも、すばらしいことだと思えます。戦争体験者は年々少なくなっていますが、私たちは、しっかりとその思いを受けとめ、次世代へ伝えていく責任があると考えます。

田上富久・長崎市長は、「全国革新懇ニユース」のインタビューで自身の核兵器廃絶や平和への考えのもとにあるものを、「被爆者の皆さんの思いです」と述べ、「思い出したくないという体験」を「何度でも話してくれ」として、「自分が被害者だと言っているのではなく、自分の体験を世界の誰にもさせたくない、させてはいけなくて、一生懸命に訴え続けている。私たちは、それを駅伝の走者のようにつないでいかないといけない」と答えています。

画家になる夢や希望、恋人や家族への思いを断ち切れ、戦争の被害者や加害者になることを余儀なくされた画学生たちも絵によってそのことを私たちに伝えていこうな気がします。

県への要請行動に共産党県議団同席